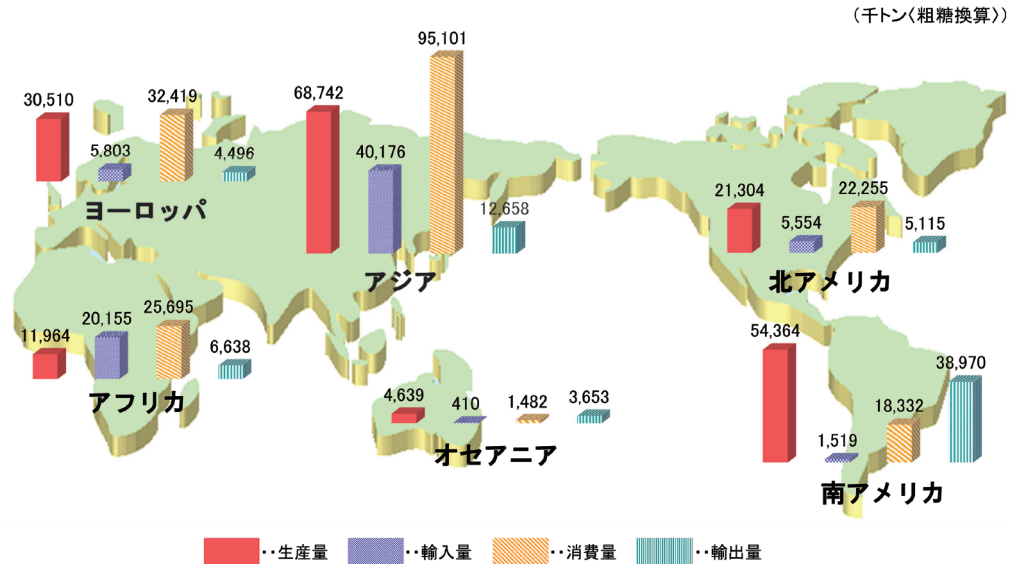


砂糖の国際需給

調査情報部 峯岸 啓之、高田 勇一

1 世界の砂糖需給（2023年9月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2023/24年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2023」
 注1：年度は、国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1993/94	43,011	111,671	29,296	111,545	30,792	41,641	37.3
1998/99	55,071	134,755	36,987	124,048	39,954	62,812	50.6
2003/04	67,776	143,453	44,661	145,044	47,150	63,697	43.9
2008/09	67,085	150,476	48,241	160,676	49,830	55,297	34.4
2013/14	63,710	184,058	58,323	175,873	61,044	69,173	39.3
2018/19	81,087	186,663	61,437	182,775	61,500	84,912	46.5
2019/20	84,912	181,562	69,224	181,949	71,645	82,104	45.1
2020/21	82,104	181,418	66,870	184,119	68,181	78,092	42.4
2021/22	78,092	186,568	69,576	186,824	71,625	75,786	40.6
2022/23	75,786	191,368	69,026	189,159	70,998	76,023	40.2
2023/24 (2023年9月予測)	76,023	191,523	73,618	195,284	71,529	74,350	38.1

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2023」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。
 注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。
 注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」および「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの更新となっていますので、次回は2024年1月号の掲載となります。直近の内容は2023年10月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003017.html

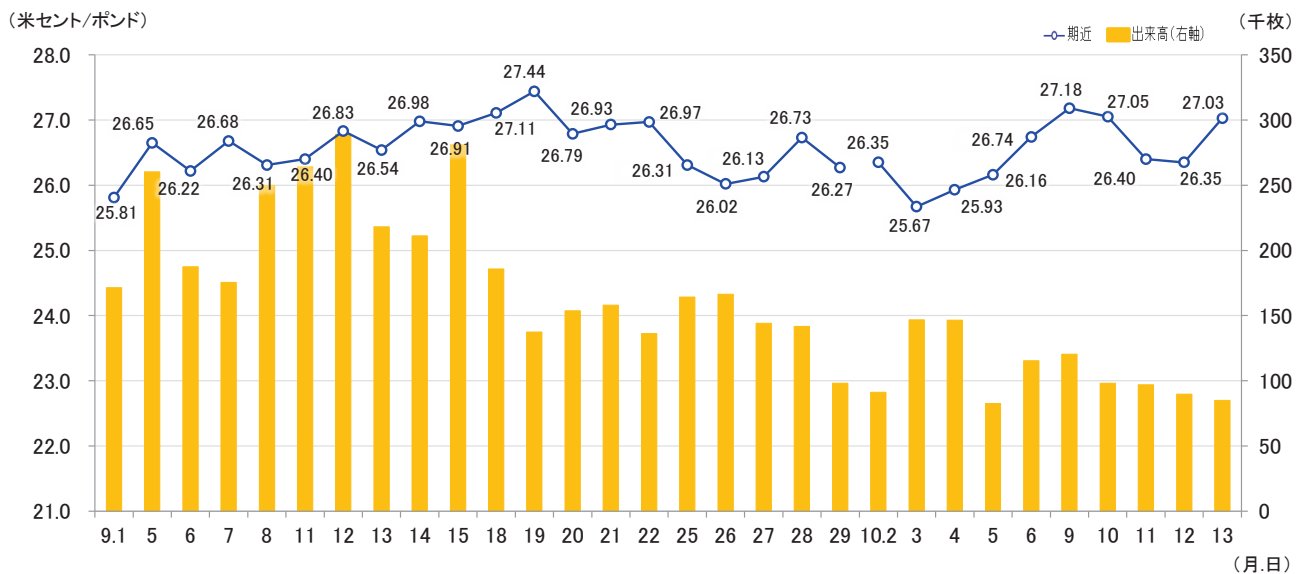
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003018.html

2 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (9/1 ~ 10/13)

～世界の砂糖供給懸念から、12年ぶりに27セント台まで上昇～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所
注：9月は10月限の値。10月は3月限の値。

2023年9月のニューヨーク粗糖先物相場（10月限）の推移を見ると、1日は、インドの8月の降雨量が1901年以来、最も少なかったことを受け、1ポンド当たり25.81セント^(注1)まで上昇した（図2）。5日は、インドでの砂糖輸出の抑制とタイでのキャッサバへの作付けの転換加速などを受けて、世界最大級の砂糖トレーダーが同年度の世界の砂糖需給を6年ぶりの不足となる540万トンの不足と見通したことから、同26.65セントと急騰した。6日は、8月後半からの相場上昇を受け、一部でロングポジション^(注2)の清算が行われたことで、同26.22セントと値を落とした。7日は、タイの製糖企業が深刻な干ばつにより、同年度の同国の砂糖生産量を前年度比18%減と見込んだことなどを受け、同26.68セントと上昇し、その後も、世界的な砂糖減産の懸念から高止まりが続き、12日は、同26.83セント

をつけた。13日は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が8月までのブラジル中南部の砂糖生産量を前年同期比20%増と報告したことなどから、同26.54セントと値を下げた。14日は、10カ月ぶりの原油高^(注3)により、同26.98セントと反発した。15日以降は、生産が好調と見込まれていたブラジルで猛暑と乾燥が予測されたことなどから上昇し、19日は、同27.44セントと12年ぶりの高値をつけた。20日は、原油安がロングポジション清算のきっかけとなったことや中国の8月の砂糖輸入量が前年同月比46.4%減と発表されたことが弱気材料となり、同26.79セントと値を下げた。21日以降は、ロンドンを拠点とするトレーダーが23/24年度のインド産砂糖の輸出可能性は低いと発表したことが価格の下支えとなり、22日は、同26.97セントと高止まりとなった。25日は、10月限の先物相場の

たてぎょく
建玉^(注4) 数量が前年同期の約2倍となり十分な砂糖供給が見込まれると予測されたことから、1週間ぶりに安値に転じ、同26.31セントと下落した。26日以降は、UNICAによるブラジルの増産報告が価格上昇を抑えたものの、ドル安^(注5) が砂糖先物のショートポジションをカバーするための買い戻し^(注6) に拍車をかけ、28日は、同26.73セントと値を上げたものの、29日は、同26.27セントの小幅安で納会した。

期近が3月限に切り替わった10月2日は、10月限の流れを引きずり、同26.35セントをつけた。3日は、レアル安により、同25.67セントと1カ月ぶりに25セント台に下落した。4日以降は、ブラジル主産地での10月の降雨予測による圧搾作業の遅延への懸念や米国農務省がタイの砂糖生産見通しを下方修正したことなどから、6日は、同26.74セントと上昇した。9日は、原油価格の高騰もあって、同27.18セントと再び27セント台に乗り上げた。10日以降は、UNICAが9月までのブラジル中南部の砂糖生産量を前年同期比23.8%増と報告したこと

などから、12日は、同26.35セントと下落したが、13日は、原油高を受け、同27.03セントと上昇した。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 将来の値上がりを期待して買いの持ち高を取っている状態。

(注3) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も増加する。バイオエタノールの需要増加により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

(注4) 先物相場において、未決済になっている契約総数。

(注5) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが上昇すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が弱まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

(注6) 将来の値下がり期待して売りの持ち高を取っていた金融資産を、決済のために買い戻すこと。

3 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向(2023年10月時点予測)

ブラジル

2023/24年度(4月~翌3月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：842万ha(前年度比0.7%減)

生産量：6億8000万トン(同12.1%増)

【砂糖(甘しゃ糖)】

生産量：4701万トン(同18.4%増)

輸出量：3559万トン(同22.8%増)

2023/24年度の砂糖輸出量は、増産と国際需要の高まりから大幅に増加する見込み

2023/24年度(4月~翌3月)のサトウキビ収穫面積は、一部の農家でより収益性の高い大豆やトウモロコシなどへの切り替えが進んだことから、842万ヘクタール(前年度比0.7%減)とわずかに減少すると見込まれる(表2)。サトウキビ生産量は、

主産地の中南部地域で好天に恵まれ収穫に良好な条件が続いたことなどから、6億8000万トン(同12.1%増)とかなり大きく増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの増産を受けて、収穫作業や工場での操業が加速しているほか、輸出関連施設の全面的稼働を背景に、4701万トン(同18.4%増)と大幅に増加すると見込まれる。今後、好天が

続けば12月中旬まで工場の圧搾作業が延長される見込みであるが、ブラジル国立気象研究所によると10月は平年を上回る降雨が予想されている。輸出量は、エルニーニョ現象による世界的な天候不順へ

の懸念や国際市場での輸入需要の高まりが期待されることから、3559万トン（同22.8%増）と大幅に増加すると見込まれる。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (9月予測)	2023/24 (10月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,651	8,679	8,485	8,495	8,423	▲0.7%	
サトウキビ生産量	657,432	576,707	606,676	678,000	680,000	12.1%	
砂糖	生産量	44,642	37,620	39,720	46,440	47,010	18.4%
	輸入量	6	4	2	3	3	48.8%
	消費量	10,916	10,718	10,557	10,715	10,715	1.5%
	輸出量	34,042	27,088	28,985	34,803	35,592	22.8%
	期末在庫量	3,758	3,576	3,756	4,391	4,462	18.8%
	期末在庫率	8.4	9.5	9.5	9.6	9.6	0.1ポイント増

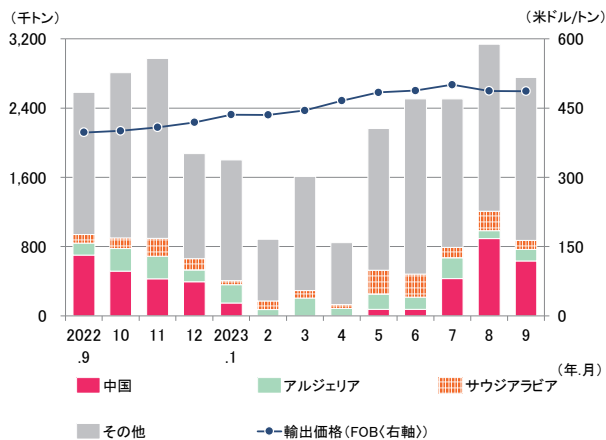
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2023」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

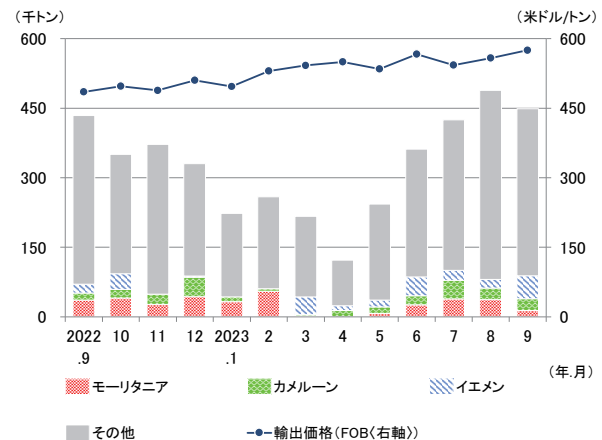
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

インド

2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：555万ha（前年度比0.3%減）
生産量：4億5515万トン（同1.9%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3233万トン（同8.5%減）
輸出量：272万トン（同68.0%減）

2023/24年度の砂糖輸出量は、減産と国内需要の確保により大幅に減少する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、555万ヘクタール（前年度比0.3%減）と前年度からほぼ横ばいで推移すると見込まれる（表3）。サトウキビ生産量は、過去5年間でモンスーン期の降雨が最も少なかったことや、カルナータカ州とマハラシュトラ州の一部などの南西部で乾燥した天候がサトウキビの生育にマイナスの影響を与えたことから、4億5515万トン（同1.9%減）とわずかに減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、インド北部ではサトウキビが順調に生育しているものの、他の主産地でのサトウキビの減産が見込まれることから、3233万トン（同8.5%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。輸出量は、砂糖の減産見込みやエタノールへの仕向け量の増加のほか、国内市場価格を安定維持するとの観点から、政府関係者による同年度の砂糖輸出を否定する発言が現地で報じられていることなどから、272万トン（同68.0%減）と大幅な減少が見込まれる。

表3 インドの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

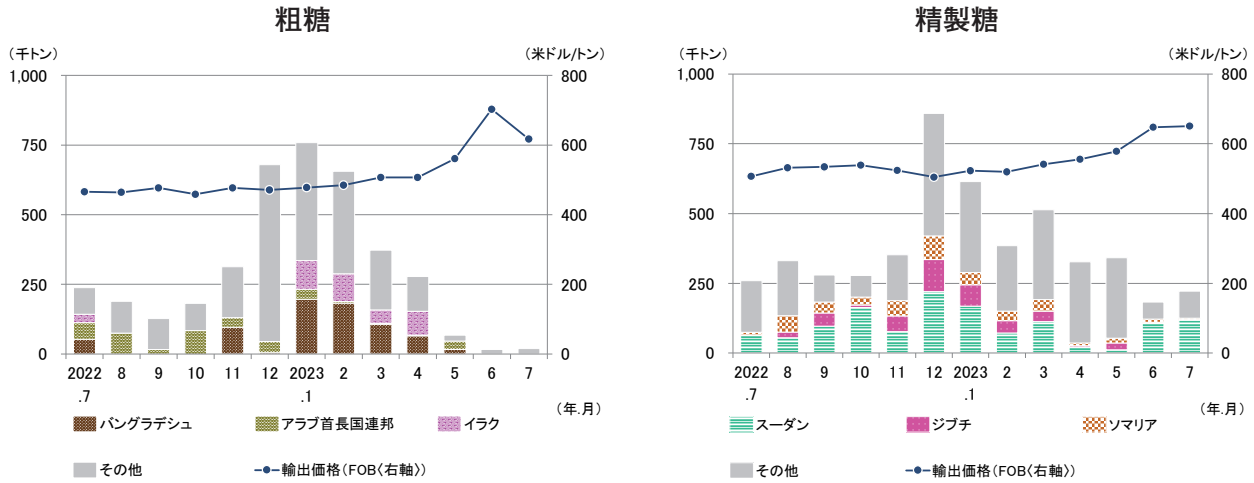
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (9月予測)	2023/24 (10月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,849	5,280	5,565	5,546	5,546	▲ 0.3%	
サトウキビ生産量	410,545	485,135	464,164	449,095	455,147	▲ 1.9%	
砂糖	生産量	33,642	38,559	35,335	33,318	32,326	▲ 8.5%
	輸入量	1,037	428	1,634	2,167	2,383	45.9%
	消費量	28,679	29,516	30,456	30,888	30,888	1.4%
	輸出量	8,538	12,468	8,489	2,283	2,718	▲ 68.0%
	期末在庫量	7,971	4,973	2,996	5,674	4,100	36.9%
期末在庫率	21.4	11.8	7.7	17.1	12.2	4.5ポイント増	

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2023」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出価格の推移



中国

2023/24年度 (10月～翌9月) の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 116万ha (前年度比0.3%減)
 生産量: 7008万トン (同11.9%増)

【てん菜】

収穫面積: 18万ha (同9.5%減)
 生産量: 895万トン (同2.3%増)

【砂糖 (甘しゃ糖およびてん菜糖)】

生産量: 1053万トン (同8.6%増)
 輸入量: 664万トン (同13.1%増)

2023/24年度の砂糖生産量はかなりの程度、
 輸入量はかなり大きく増加する見込み

2023/24年度 (10月～翌9月) のサトウキビの収穫面積は、116万ヘクタール (前年度比0.3%減) とほぼ横ばいで推移すると見込まれる (表4)。サトウキビ生産量は、年初に広西チワン族自治区で続いた乾燥が生育の懸念材料となっていたものの、8月から9月にかけて降雨に恵まれたことから、7008万トン (同11.9%増) とかなり大きく増加すると見込まれる。一方で、てん菜の収穫面積は、新疆ウイグル自治区で寒さによるてん菜の部分的な不作が生じたことなどから、18万ヘクタール (同9.5%減) とかなりの程度減少すると見込まれる。てん菜生産量は、収穫面積の減少に加え、内モンゴル自治区で乾燥した天候が懸念される中、895万トン (同

2.3%増) とわずかに増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの生産回復を背景に、1053万トン (同8.6%増) とかなりの程度増加し、21/22年度の水準にまで回復すると見込まれる。輸入量は、世界的な砂糖価格の上昇などを背景に在庫の取り崩しが進んだことから、664万トン (同13.1%増) とかなり大きく増加すると見込まれる。

同国政府は9月27日、2016年以来6年ぶりとなる砂糖備蓄の国内市場への放出を実施しており、12万6700トンの砂糖が売り渡され、今後も追加の放出が行われる可能性がある。

広西チワン族自治区、サトウキビ^{ほじょう}圃場の拡大
 と機械化の導入を推進

9月24日付け現地報道によると、中国最大のサ

トウキビ生産地である広西チワン族自治区では、2023/24年度のサトウキビ作付面積は1124万ムー^(注1) (75万ヘクタール、前年度比0.4%増)とわずかに増加、サトウキビ生産量は4700万トン (同14.1%増)とかなり大きく増加すると見込まれる。これによる、サトウキビの増産と前年度の砂糖生産量 (527万トン) から予想される砂糖生産量は、約600万トンと見込まれる。

同自治区では、今年からサトウキビの生産保護区を新たに設け、ユーカリ植林地からの転換を図る「桉退蔗進 (直訳：ユーカリ後退、サトウキビ前進)」を実施している。8月末の時点で、73万2300ムー (4万8820ヘクタール) のユーカリや果樹などの圃場が減少し、新たに60万6600ムー (4万440ヘクタール) のサトウキビ圃場が拡張された。

また現在、同自治区では、サトウキビ圃場での一連の作業 (圃場での収穫、葉と不純物の除去、製糖工場での圧搾など) において段階的な機械の導入を試験的に進めている。特に収穫や葉の分別は煩雑で負担が大きいことから、すでに栽培と収穫での機械化率は7割程度とされており、作業効率の向上に貢献している。さらに同自治区では、全地域の製糖企業で戦略的再編と積極的な生産能力の統合を推進し、地域産業の拡大を図っている。その中で、現在約5割の製糖工場で自動包装やパレタイジング^(注2) 設備、分散制御システムなどが導入されている。

(注1) 1ムーは約0.0667ヘクタール。

(注2) 荷物をパレット (荷物を荷役・輸送・保管のために載せる台) に積み上げること。パレタイズともいう。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

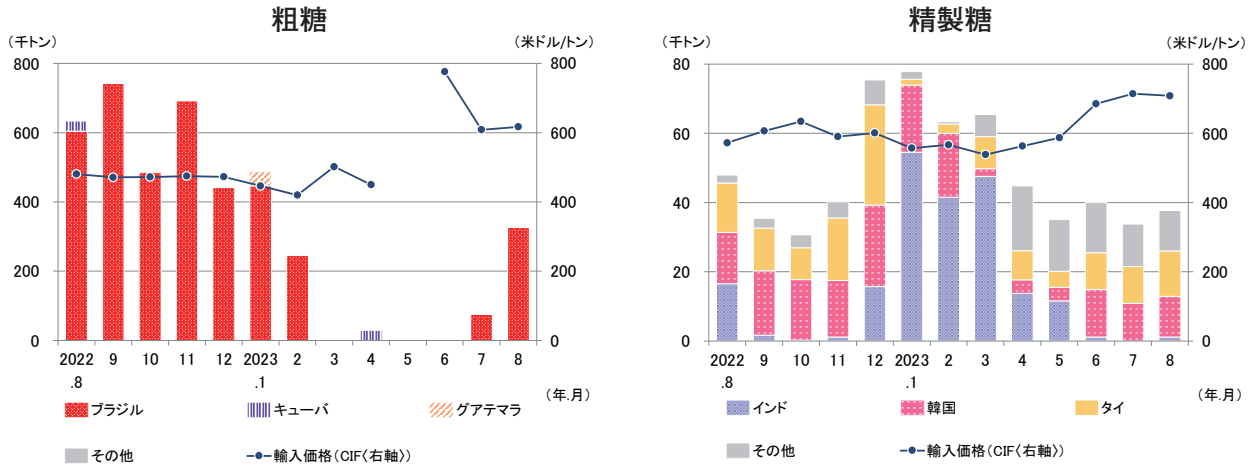
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (9月予測)	2023/24 (10月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,157	1,119	1,163	1,160	1,160	▲ 0.3%	
サトウキビ生産量	72,441	72,136	62,635	68,275	70,075	11.9%	
てん菜収穫面積	231	144	199	180	180	▲ 9.5%	
てん菜生産量	12,330	7,070	8,753	8,953	8,953	2.3%	
砂糖	生産量	11,530	10,334	9,698	10,285	10,534	8.6%
	輸入量	8,198	6,961	5,870	6,473	6,639	13.1%
	消費量	16,740	16,524	16,848	16,956	16,956	0.6%
	輸出量	134	172	192	167	167	▲ 13.0%
	期末在庫量	15,919	16,517	15,045	14,657	15,095	0.3%
	期末在庫率	94.3	98.9	88.3	85.6	88.2	0.1ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2023」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」
 注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
 注2：輸入量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。
 注3：2023年5月の粗糖輸入は、実績なし。
 注4：2023年3月および6月の粗糖輸入量は、千トン未満のため表示なし。

E U

2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：144万ha（前年度比3.2%増）
 生産量：1億465万トン（同5.8%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1658万トン（同5.8%増）
 輸出量：216万トン（同2.3倍）

2023/24年度の砂糖生産量は回復し、輸出量は増産などを背景に大幅に増加する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は、EU最大のてん菜主産地であるフランスで減少が見込まれるものの、トウモロコシや小麦と比較しててん菜の収益性が高いことや、春先の降雨による播種の遅れを補うほどの好天に恵まれたことなどから、ポーランドやスペインで作付面積の増加が見込まれ、144万ヘクタール（前年度比3.2%増）とやや増加すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、この数カ月間北西ヨーロッパ地域の大部分で良好な降雨と日照に恵まれ、作柄の見通しが改善されたことから、1億465万トン（同5.8%増）とやや増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、萎黄病（注）の影響が限定的との見通しやバイオエタノールへのてん菜利用の減少予測などから、1658万トン（同5.8%増）とやや増加

すると見込まれる。輸入量は、てん菜の増産が期待されることから、295万トン（同6.4%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。また、輸出量は、216万トン（同2.3倍）と18/19年度の水準まで回復が見込まれる。

（注）萎黄病はアブラムシによって媒介される植物ウイルス病。

ドイツの砂糖生産量の見通し

各国・地域のてん菜・サトウキビ生産者団体をまとめる国際組織であるWorld Association of Beet and Cane Growers（WABCG）が発行する10月のニュースレターで、EUでも有数のてん菜生産地域であるドイツ西部のラインラント地域のてん菜生産者団体による2023/24年度の同地域のてん菜生産状況報告を報じている。これによると、同国西部では春先に降雨が続いたことから、てん菜の播種は4月初旬に開始されたが、度重なる降雨により作業

は停滞し、5月中旬にまで6週間ずれ込んだ。播種後、天候は一変し、5月中旬から7月中旬にかけては雨がほとんど降らず、気温は35度を超えることもあり、多くのてん菜生産者は夏期の干ばつを心配した。しかし、7月中旬以降は、雨がちで日照時間の少ない天候が9月まで続き、9月に入ると日照時間は持ち直したとされている。

7月中旬から8月末までの適度な降雨と気温により、てん菜の成長は良好であったものの、糖度については、高温によるストレスや日照時間の不足などによりほとんど上昇せず、出荷時の平均糖度は、例年の平均^(注)を下回る16.5%と予測している。一方で単収は1ヘクタール当たり約80トンと良好な見通しであり、全体では平均的な糖収量を達成するため、播種の遅れをてん菜の生育期間の延長で補うべく、製糖企業との

合意により収穫を遅らせる予定であるとされている。収穫を遅らせることで、晴天の日が多く、夜間の気温が徐々に下がる9月の天候が、てん菜の糖度増加に良い影響を与えることが期待され、同地域の収穫は2024年1月初旬まで続くと予想されている。

また同国の製糖協会であるWirtschaftliche Vereinigung Zucker (WVZ) は10月4日、同年度の砂糖生産量の見通しを発表した。これによると、てん菜の栽培面積は36万5000ヘクタール、1ヘクタール当たりの単収は79.2トンとされた。これらよりWVZは、同年度のてん菜生産量を約2900万トン、砂糖生産量を約440万トンと予測している。

(注) 欧州砂糖製造者協会 (CEFS) の発行する「CEFS STATISTICS 2021/22」によると、過去5カ年度 (17/18~21/22年度) における出荷時のてん菜の平均糖度は17%である。

表5 EUの砂糖需給の推移

(単位:千ha、千トン、%)

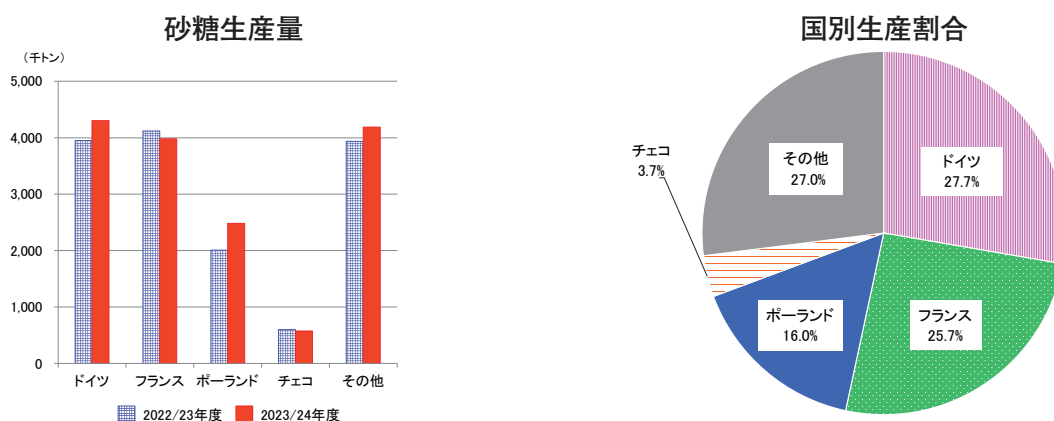
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (9月予測)	2023/24 (10月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,474	1,454	1,396	1,439	1,441	3.2%	
てん菜生産量	98,508	111,404	98,940	102,924	104,647	5.8%	
砂糖	生産量	14,717	17,153	15,667	16,454	16,580	5.8%
	輸入量	1,888	2,132	3,148	3,033	2,946	▲6.4%
	消費量	16,357	17,653	17,619	17,317	17,540	▲0.4%
	輸出量	1,262	1,312	951	2,220	2,160	2.3倍
	期末在庫量	1,332	1,651	1,896	1,934	1,722	▲9.2%
	期末在庫率	7.6	8.7	10.2	9.9	8.7	1.5ポイント減

資料: LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2023」

注1: 2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの砂糖生産量および国別の生産割合の見通し (2023/24年度) (2023年6月時点)



資料: 欧州委員会

注1: 精製糖換算

注2: 2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度は予測値。

資料: 欧州委員会

4 日本の主要輸入先の動向（2023年10月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイであり、2022年の主要輸入先ごとの割合を見ると、豪州が90.7%（前年比4.1ポイント増）、タイが9.3%（同4.1ポイント減）と、両国がほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2023/24年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：34万ha（前年度比2.5%増）

生産量：3103万トン（同4.8%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：441万トン（同4.3%増）

輸出量：341万トン（同15.8%増）

2023/24年度の砂糖輸出量は、需要の高まりからかなり大きく増加する見込み

2023/24年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、34万ヘクタール（前年度比2.5%増）とわずかな増加が見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、主産地であるクイーンズランド州北部で例年より雨季の影響が強く、土壌水分の飽和による作柄への影響や、害虫や雑草の管理が適切に実施できなかったことなどから、3103万トン（同4.8%減）とやや減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビが減産見込みであるものの、9月時点の压榨においてはCCS^(注)が高いことから、441万トン（同4.3%増）とやや増加する

と見込まれる。しかし、今後、エルニーニョ現象が強まり、サトウキビ生産地で乾燥が進むことは、24/25年度のサトウキビ生産にはマイナスに働く可能性がある。輸出量は、主要輸出先である韓国、インドネシアおよび日本などの砂糖消費需要に加え、50年ぶりに再開された英国への輸出や砂糖の供給懸念により世界的に豪州産砂糖需要の高まりが見込まれることから、341万トン（同15.8%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

(注) 可製糖率：サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (9月予測)	2023/24 (10月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	354	342	331	339	339	2.5%	
サトウキビ生産量	31,074	30,123	32,589	31,071	31,031	▲ 4.8%	
砂糖	生産量	4,385	4,108	4,222	4,410	4,405	4.3%
	輸入量	10	9	16	14	14	▲ 12.5%
	消費量	1,010	1,010	1,009	1,010	1,010	0.1%
	輸出量	3,377	3,513	2,945	3,414	3,409	15.8%
	期末在庫量	789	383	668	669	668	0.0%
	期末在庫率	18.0	8.5	16.9	15.1	15.1	1.8ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2023」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：150万ha（前年度比7.1%減）
生産量：7500万トン（同20.1%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：915万トン（同21.7%減）
輸出量：621万トン（同24.9%減）

2023/24年度の砂糖生産量と輸出量は、大幅に減少する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、エルニーニョ現象などによる乾燥天候を考慮して、より乾燥に強いキャッサバに転換する農家が増加しており、150万ヘクタール（前年度比7.1%減）とかなりの程度減少すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、収穫面積の減少に加え、エルニーニョ現象による天候不順がサトウキビの生育に大きく影響し、7500万トン（同20.1%減）と大幅な減少が見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの減産を受け、915万トン（同21.7%減）と大幅に減少すると見込まれる。輸出量も、砂糖の減産を背景に、621万トン（同24.9%減）と大幅に減少すると見込まれる。

データベースの活用と生産者への融資によるグリーンハーベットの推進

農業・農業協同組合銀行（BAAC）は9月26日、サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）との間で、農産物データベースの開発と連携に関する覚書に署名したことを明らかにした。本データベースはサトウキビ生産者の登録データと製糖工場へのサトウキビの販売データを結びつけ、BCG経済モデル^{（注1）}に基づく大気汚染物質（PM2.5）削減を目的としたサトウキビ生産者向けの融資事業を実施するために活用される。

タイでは、サトウキビの梢頭部^{しょうとうぶ}や葉を燃やした後には収穫する焼き畑で発生するPM2.5の粉じんが問題となっており、サトウキビ生産者に対し、焼き畑

の制限とグリーンハーベスト^{（注2）}の促進が求められてきた。しかし、新たな収穫機の導入など生産者の負担の増加が課題となってきた。本データベースの活用により生産者の資金流動性の向上を図り、生産者に実行可能な環境保全を意識したサトウキビ生産への取り組みを奨励する狙いがある。BAACは、BCG経済モデルに基づき生産者の資金繰りなどの支援に向け総額350億バーツ（1459億5000万円：1バーツ＝4.17円）^{（注3）}相当の追加資金を用意している。融資条件は、サトウキビ生産者としてOCSBに登録されていることや、焼き畑を減らす計画があることなどが挙げられ、BAACが設定した基準に従った経営を実施した生産者には、融資金利の引き下げも検討されている。

また、BAACはサトウキビ生産の技術向上のため、生産地域に応じた適切なコスト削減や生産性の向上への取り組みを支援するとしている。例えば、サトウキビ刈り取り業者を受け入れるために、生産者に対して収穫機の出入りを容易にするような圃場の調整を奨励することで、収穫での労働力不足を軽減することができる。さらに、砂糖の製造工程やバイオマス発電の補助燃料として使用されるサトウキビ残さを、地域の製糖工場に販売するために、刈り取った葉を圧縮するための機械（スクエアペーラー）の導入も奨励している。BAACは、生産者の収入を増やし、地域の持続可能な環境条件を維持することも、支援の目的の一つであるとしている。

（注1）BCG経済モデルとは、同国の経済施策の一つで、「バイオ（Bio）経済」「循環（Circular）経済」および「グリーン（Green）経済」の概念を統

合したものの。生物資源の活用、資源の再利用とリサイクル、社会経済と環境のバランスによる持続可能な開発などを主眼とし、次の4産業が注力分野として掲げられている。(1) 農業・食品 (2) 医療・健康 (3) エネルギー、素材およびバイオ化学 (4) 観光・クリエイティブ経済。

(注2) サトウキビを燃やさず、そのまま収穫する方法。

従来、同国ではサトウキビを燃やした後に収穫するのが一般的であったが、大気汚染を引き起こすとの批判が国内で高まったため、近年はグリーンハーベストが推進されている。

(注3) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の9月末TTS相場を使用。

表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

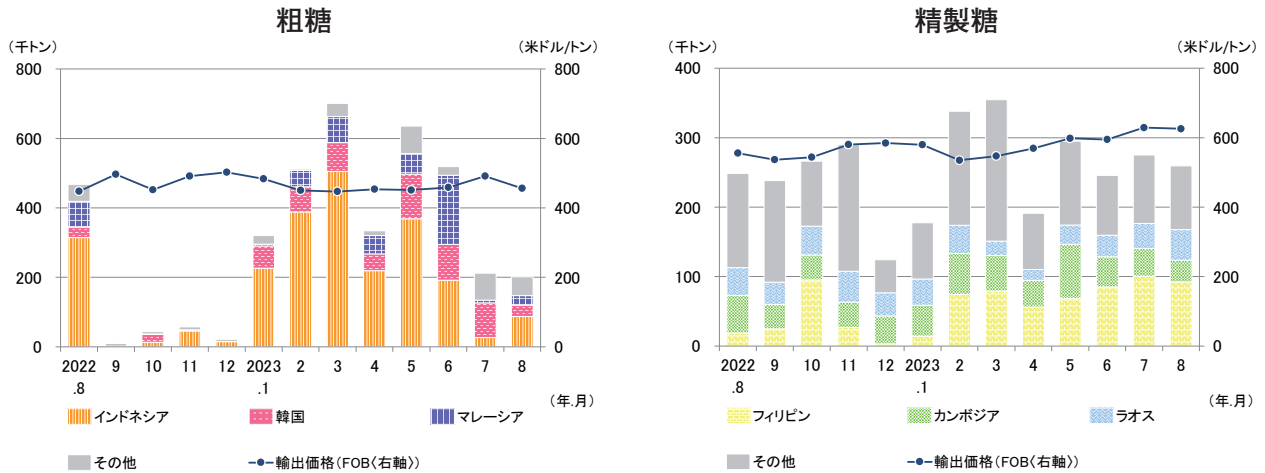
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (9月予測)	2023/24 (10月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,485	1,525	1,617	1,502	1,502	▲ 7.1%	
サトウキビ生産量	66,659	91,145	93,888	75,000	75,000	▲ 20.1%	
砂糖	生産量	8,046	10,638	11,693	9,157	9,154	▲ 21.7%
	輸入量	111	149	195	170	195	0.0%
	消費量	3,592	3,424	3,348	3,309	3,309	▲ 1.2%
	輸出量	3,981	8,085	8,275	6,047	6,212	▲ 24.9%
	期末在庫量	5,116	4,395	4,660	4,218	4,488	▲ 3.7%
	期末在庫率	67.6	38.2	40.1	45.1	47.1	7.0ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2023」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。